



写真5



写真6



上の写真のうち1から5は、観測点の具体例や、それを通じて「エ」国の置かれた自然条件を示しました。また、写真6はソフトコンポーネントの様子を垣間見ることができる1枚です。

写真1及び2は首都サンサルバドルに近い海岸部（リベルタ港）のもので、矢印↓の部分（楕円のところ）に超音波式の潮位計を整備しました。この埠頭は主に漁業に利用されており、埠頭には魚屋が軒を連ねています。

写真3及び4はアカフトラ港という西部地域の重要港（それぞれに楕円で示した部分は同じ埠頭）で、矢印aの部分辺りに津波等を監視するカメラを設置しました。ここには矢印bの付近に既存の潮位計があります。

写真5はアカフトラの近隣の標高約2千メートルの火山の頂上（ここには既存の短周期地震計があります。）からのもので、その隣の火山の頂上が写っています。海岸からここまでは車で約1時間で到着する海岸から僅かな距離のところにあります。この隣の火山は最近まで噴火していて、写真に示した場所は、ここからそれを眺める観光地として一時賑わっていたとのことでした。このようにエルサルバドルには日々の生活に関わる場所に火山が多数あり、火山活動もMARNの重要な監視対象です。

写真6は地震計コースの到達度確認試験実施中の写真です。ここに見える13名がこのコースを修了しました。

（振興部）